

ウルグアイ経済報告（1月分）

【概況】

- 1月の消費者物価指数（対前年同月比）は8.71%となり、先月に続き政府のインフレ目標（3～7%）を上回った。前年同月比で食料品・ノンアルコール飲料、娯楽・文化、教育及びレストラン・ホテルの分野では2桁、それ以外の分野では1桁台の増加であった。
- 1月の対ドル為替レートは平均37.35ペソと、前月比0.6%のペソ高となった。
- 1月の輸出額は612百万米ドルで、牛肉、セルロース、コメ、牛肉製品・くず肉、プラスチック・プラスチック製品及び木材の輸出減少に伴い、前年同月比は4.7%減となった。一方、乳製品、炭酸飲料原料、生体牛、麦芽飲料及び羊毛・織物の輸出は好調であった。
- 1月の輸出額第1位は牛肉で輸出額は111百万米ドル（前年同月比2%減）となった。主要輸出先である中国への輸出が減少（前年同月比13%減）したことが輸出額減少の要因。同2位はセルロースで輸出額は104百万米ドル（前年同月比19%減）となった。同3位は乳製品でアルジェリアへの輸出増加（25百万米ドル）に伴い輸出額は59百万米ドル（前年同月比14%増）となった。同4位は炭酸飲料原料で輸出額は42百万米ドル（前年同月比13%増）となった。主要輸出先であるメキシコへの輸出（全体の30%）に加え、ドミニカ共和国、アイルランドへの輸出増加が要因。同5位のコメは、主要輸出先であったキューバへの輸出がなくなったことに伴い輸出額は39百万米ドル（前年同月比3%減）となった。
- 輸出が特に不調であったのが牛肉製品・くず肉で、主要輸出先である米国への輸出減少に伴い輸出額は18百万米ドル（前年同月比9%減）となった。
- 輸出が好調であったのが生体牛、麦芽飲料、羊毛・織物である。2019年1月には、輸出先はブラジルのみで輸出額は1万3千米ドルであった生体牛の輸出額は、トルコへの輸出開始に伴い23百万米ドルまで増加した。麦芽飲料の輸出額は22百万米ドル（前年同月比85%増）で、うち18百万米ドルがブラジルへの輸出である。羊毛・織物の輸出額は19百万米ドル（前年同月比15%増）となった。
- 1月の主要輸出先を見ると、先月に続き中国が輸出先第1位となった（89百万米ドル、輸出額全体の23%）。冷凍牛肉の輸出減少（62百万米ドルから54百万米ドルに減少）に伴い前年同月比は14%減となった。同2位はブラジル（78百万米ドル、輸出額全体の20%）で、前年同月比は1%減であったものの、コメ及び自動車の輸出量は増加した。同3位はEUで、主要輸出産品である牛肉（7%減）、羊毛（25%減）及びまき（84%減）の輸出減少に伴い輸

出額は41百万米ドル（前年同月比28%減）となった。同4位は米国で、輸出額は29百万米ドル（前年同月比7%減）となった。同5位は、生体牛の主要輸出先であるトルコ、同6位は石油の輸出開始に伴い前年同月と比較し11%の増加が見られたアルゼンチンであった。

【トピック】

1 公共料金の値上げ

1月7日、農牧生産者グループ「ウルグアイはひとつ（Un solo Uruguay）」代表者は、ラカジェ・ポウ次期大統領及びアルベレチェ次期経済財務大臣と会合した。右会合においてラカジェ・ポウ次期大統領は、新政権発足後公共金の値上げを実施する旨表明した。また、会合の参加者の話によると、アルベレチェ経済財政大臣は、公共料金値上げを実施しないバスケス政権の対応では次期政権にて更に400百万米ドルの財政赤字が生じることになる旨説明。また値上げ率については、政府の要求ではなく各企業の調整によって決められると述べた。

2 緊急検討法案

1月29日、250名を超える労働組合員が全国労働総同盟（PIT-CNT）本部に集合し、ラカジェ・ポウ次期大統領が新政権発足後に議会に提出予定の緊急検討法案の内容に関する検討を始めた。会合では、同法案の内容に関し組合員らが様々な懸念を表明した。

3 国債の発行

1月24日、経済財務省及び中央銀行は国債発行と債務交換の手続きを終えた。当初予定されていた額の3.2倍の需要があり、政府は35,456百万ペソ（約952百万米ドル）の国債を発行した。右国債の92%は、政府や中銀が発行した手形と交換する形で購入され、内77%は2020年に期限を迎える中銀発行の手形、23%が政府発行の手形であった。残り8%についてはペソもしくは米ドルで購入された。今回の国債発行により、ペソ建て資金の調達、2020年に期限を迎える手形の支払いの約66%の資金の調達、証券の平均期限延長、国内の公共債市場の更なる発展が達成された。

4 対EU関係

1月15日、ラカジェ・ポウ次期大統領と会合したケーニッヒ駐ウルグアイ EU 大使は昨年6月に実質合意に至った EU・メルコスール FTA に関し、本年中には批准に向けたプロセスが開始されるだろうと述べた。また、協定のページ数の多さ故に作業に時間を要しており、未だ法的審査のフェーズを完了していない旨説明した。

5 対フィンランド関係

1月21日、デルガド次期大統領府長官及びフェレス次期大統領府副長官は、バナモ・サンタクルス駐アルゼンチン・ウルグアイ・パラグアイ・フィンランド大使と会合した。バナモ・サンタクルス・フィンランド大使は、ウルグアイとの貿易関係維持及びウルグアイの技術者・専門家の人材育成のための協力に関心を示した。また、同会合後デルガド次期長官は、フィンランドは環境分野を中心とした協力関係促進に関心を示しており、今後も本件について協議するために会合を重ねていくと述べた。今次会合においては、フィンランド企業 UPM 社の第2セルロース工場設置計画についてはほとんど議論されなかった模様。

6 格付け

1月30日、カナダの格付会社 DBRS 社はウルグアイへの格付けを「BBB」で据え置く旨発表した。また、右評価の理由として強固な政治・経済基盤、質の高い公共機関、低い汚職率、予見性の高いマクロ経済を挙げた他、融資の強さや十分な外貨準備についても言及し、優れた銀行システムが経済体制を更に強力なものにしていると説明した。

7 観光

1月15日の観光省の発表によると、2019年にウルグアイを訪れた観光客数は3,220,602人となりアルゼンチンからの観光客減少に伴い前年に比べ50万人減少した。一方、2020年1月1日からの10日間でウルグアイを訪問した外国人数は135,400人となり前年同期に比べ3.4%増加した。

(了)